



連合長野での懇談

●ダルハン・オールの概要

県都ダルハン市はモンゴル第2の都市で、人口約12万人。近年、セレンゲ県から周辺3郡とともに分離、ダルハン・オール県となる。150km西に第3の都市・エルデネット市がある。首都ウランバートル市から北へ220kmに位置する。更に北へ100kmはロシア国境。

このウランバートル、ダルハン、エルデネットの3都市はモンゴル国の「産業・文化発展のトライアングル」とも呼ばれている。

ダルハン市は工業、農業重点地区で鉄鋼、小麦粉、食肉・食品工場やコート・ベスト等の革製品、タペストリー、絨毯等の羊毛製品、室内履き・マット・装飾品等のフェルト製品の工場がある。50年前から居住地域を工場と離して設け、環境の整備されている都市である。



アジナイホールの演奏

「創立20周年記念レセプション」

11月11日(水)長野市「メルバルク長野」におきまして、駐日モンゴル国大使館・Rジグジッド特命全権大使、ダルハン県労使代表団ほか80名からの参集のもと、「創立20周年記念レセプション」が盛大に開かれた。

中山喜重会長は20年間の活動を振り返るとともに、「急速に砂漠化が進行しているモンゴル国で植樹活動を進めたい」とあいさつ。Rジグジッド大使は「母国に長野県とモンゴル国の友好の森ができれば素晴らしい」と熱く述べられた。

会場ではアトラクションとして、モンゴル国の民俗音楽グループ「アジナイホール」(アジナイは駿馬・ホールは楽器の意)の馬頭琴とモンゴル民謡の調べに酔いしれ、同じ訪問団員同志が旧交を温めあい談笑するなど交流の輪が広がった。

「第20期定期総会」開催

創立20周年記念レセプションにさきが開かれた定期総会では、予定しました議案は満場一致承認決定された。

1. 創立20周年記念事業

① 創立20周年記念レセプションの開催
② モンゴル国ダルハン市の労使代表の

招聘

③ 第21次モンゴル国訪問団の派遣
右記の3項のほか、例年に準じて

2. モンゴルからの留学生の支援体制強化

3. モンゴル国内及び県内在住のモンゴル人とのネットワークの構築

4. モンゴル国の大学と交流のある県内各大学との連携

5. 各種イベントへの参加

6. 「会報モンゴル」の発行と「ホームページ」の活用

以上の活動に伴う収支予算として、
1. 3993,829円(前年実績比
4. 399円減)を計上した。

また、任期満了に伴う役員改選の件は、竹沢昭彦常任幹事(連合長野・事務局長)退任に伴い、後任の中山千弘が新任された他は、全員留任することで承認されました。

モンゴルレポート

砂漠化が深刻なモンゴル

モンゴル国は日本の国土の四倍、人口は260万人、年間降雨量(100mm、400mm)は極めて少ないというご存知のとおりである。日本のように海に囲まれている訳ではない。ゴビ砂漠の

ように極めて乾燥した地域から、ロシアの国境に近い、私たちと交流のあるダルハン市やフスグル湖あたりのように川も湖もあって、葦や蒲が生えている水が豊富なところもある。こうした日本と際立った違いのあるモンゴルから、何を学ばなければならぬのか。

自然循環型という長い歴史の中にある「遊牧」は市場経済化の煽りを受けて過放牧となっている。五畜がバランスよく放牧されていたのに、最近の変化はカシミヤの原毛を採るためと急激にヤギを増やしている。それも都市近郊に集中する傾向にあって、その将来が心配されている。ご多分に漏れずモンゴルは砂漠化、乾燥化、温暖化という気候変動が大きな問題となつて、ダイレクトに降りかかり大変な課題となっている。

また、アジアのメガシティといわれる都市が共通に抱える問題に「極集中問題」があり、特にウランバートルは都市のインフラをどう整備するか。大量の人口が遊牧地からウランバートルに流入、近郊の自然環境に大きな変化をもたらしている。「豊かな大自然」という資産を有するモンゴルが様々な開発に迫られている現状を憂慮する。

(文責 事務局 西澤 寛)

お知らせ

事務所

〒380-0838 長野市東町528

TEL・FAX

026-2335-6717

http://w2.avs.ne.jp/~mongol

連絡は携帯090-1828-5056
(西澤 寛)へお願いします